

令和4年度 事業計画書

〔こども育成課〕

1. 事業方針

基本方針：「すべての子どもの笑顔があふれる活動拠点を地域とともにつくります」

第4期指定管理基本方針を事業方針とし、すべての子どもが児童会館に来館しやすい環境づくりと運営を目指す。

- ①多様性を認め合い、子どもたちが自分らしく過ごせる居場所づくりを進めます。
 - ・多種多様な状況や価値観を視野に入れた対応を行う。
 - ・相手を承認する、受容することを根底に子どもや保護者の気持ちに寄り添って対応する。
- ②主体性を生かしたあそびや体験をとおして、子どもたちの未来の可能性を広げます。
 - ・子どもたちの想像力をさらに向上させるために、個人の経験や能力を生かした主体的活動を推進する。
- ③地域・関連機関・保護者等と連携し、子どもたちの心身の育ちの場を広げます。
 - ・保護者及び地域協力者の拡大に努めるとともに、運営協議会でのご意見を参考に関係機関と連携して子どもの育ちを支援する事業を展開する。
- ④児童会館一体管理のスケールメリットを生かした効率的な運営を推進するとともに経費削減に努めます。
 - ・各ブロックで予算の計画的執行に努めるとともに、一層の費用縮減を図るため発注の共同化及び在庫の共同利用を積極的に推進する。

2. 重点目標

(1) 地域活動等事業

札幌まなびのサポート事業（遊學舎まなべえ）実施をとおした居場所の確立」

（札幌市保健福祉局保護自立支援課からの委託事業）

学習習慣を身に付けるとともに、継続した学習支援をとおして基礎的な学力の向上を図り、高校進学を促進する。また、当該事業をきっかけに実施日以外の継続利用に向けた取り組みを拡充し、中高校生の居場所としての児童会館のあり方を確立していく。なお、当該事業はこども事業課をはじめ当協会が運営する各施設のノウハウを生かした上で連携実施する。

(2) 施設運営等事業

①「あそびや体験活動を通じた子どもの日常生活支援と発達支援」

コロナ禍においても、全ての子どもが安全で安心して過ごせる居場所として、様々なあそびや体験活動を行うことができるよう社会の変化に則した児童会館・ミニ児童会館の運営を行う。これまでと変わらず、一人ひとりの子どもたちに目を向け、仲間とともに自己肯定感や自己有用感を持ち、幸せをつくり成長し続けるよう、社会の担い手となる人づくりを地域とともに進めていく。

②「子どもと子育て家庭が抱える課題に対する予防と早期発見・対応力の強化」

児童虐待、不登校、ネットいじめ、ヤングケアラーなど増加傾向にある課題に対し、子どもを取り巻くあらゆる環境を視野に入れ、協会他部門や外部の専門機関と連携し、一人ひとりの命と幸せを守る適切な対応を心掛ける。子どもの最善の利益を第一に考えるとともに、子育て当事者の視点に立った対応を心掛ける。

③「子どもをまんなかに据えた、子ども視点の児童会館運営」

子どもの権利条例等を念頭に置き、これまで以上に子ども運営委員会活動の充実を図るとともに、日常活動においても、子どもと考へ、子どもの意見を反映し「子どもたち一人ひとりが参加・参画する」施設運営を目指す。より多く子どもたちの意見が行政や施策に反映できるよう事業運営を行うとともに、育成課職員としての姿勢を示す『チャイルド・プロテクション・ポリシー』を策定し、子どもに対応する職員の意識醸成をさらに図る。

④「デジタル社会における児童会館に求められるニーズの把握と活用の検討」

子育て世代のニーズや求める価値を適切に把握し、時代に即したデジタル技術の活用を検討していく。また業務の省人化、効率化の視点を持ち、業務の改善と発展につながる多くの可能性を中期的な展望を持って検討していく。利用者サービスの向上に関しては、学校 ICT に伴う宿題 PC 化対策としてフリーWi-Fi の導入、デジタル連絡帳や見守りシステム・HP 等のあらゆる情報がつながるアプリケーションの導入等、管理部門においては、利用状況の可視化による適正な職員配置や将来の状況予測、有期職員採用をはじめとする事務のシステム化等をこども事業課と連携し進めていく。

⑤「子ども行政の動向把握と次期指定管理業務へ向けた取り組み」

「こども家庭庁」設立と「こどもや若者に関する施策」の動向把握を行い、社会の変化に迅速に対応できるよう運営体制を整える。また、次期指定管理業務獲得に向け、国政や市政動向を意識しつつも、これまで築き上げてきた児童会館の運営ノウハウや新しいアイデアを盛り込んだ当財団らしい提案の実現を目指す。

⑥「未来を担う子どもたちのために、職員同士が育ちあう環境を整え、人間性豊かな指導者の育成を目指す」

子どもたちが夢や希望、幸せな気持ちを持って充実した日常を過ごすためには、寄り添う周囲の大人が生き生きと日々を過ごすことが重要である。常に変化への対応が求められる社会情勢の中でも、創造力と対応力をもつ魅力的な人材の育成により未来を担う子どもたちの育ちを支援する事業を展開する。職員同士が育ちあい、自己実現可能な職場環境を互いに整えるとともに、効果的な研修の計画や自己研鑽の機会を設けていく。

3. 数値目標（具体的な根拠を示すこと）

	項 目	2022 年度目標値	2021 年度見込み
(1)	利用者総数（全市集計）	3,000,000 人	2,720,000 人
(2)	事業プログラム参加者総数	550,000 人	511,000 人
(3)	地域連携事業の実施	総数 200 回 (1 館あたり 1 回以上/年)	総数 190 回
(4)	クラブ・サークル成果発表の機会	総数 400 回 (1 館あたり 2 回以上/年)	総数 380 回
(5)	子どもたちによる読み聞かせの実施	総数 6,000 回 (1 館あたり 3 回以上/月)	総数 6,000 回
(6)	子ども運営委員会の企画する事業実施	総数 400 回 (1 館あたり 2 回以上/年)	総数 450 回
(7)	自然体験活動の実施	総数 1,000 回 (1 館あたり 5 回以上/年)	総数 1,500 回
(8)	利用者アンケート 総合満足度	80%以上	87%
(9)	利用者アンケート 接遇満足度	80%以上	87%